

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.800 2020

2020年10月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

コロナ禍で深刻化する 10代少女の虐待、性暴力、孤立 安心して過ごせる「ホーム」がある社会に

一般社団法人Colabo(コラボ)代表 仁藤 夢乃

Colaboでは虐待や性暴力被害に遭うなどした少女たちを支える活動をしています。夜の街で家に帰れずにいる少女たちへの声掛けや、10代無料のバスカフェ「Tsubomi Cafe」を開催。カフェでの食事提供や宿泊支援、SNSを通じた相談への対応、児童相談所や警察、病院への同行支援、一時シェルター、中長期シェルターの運営などを行っています。

新型コロナウイルスの影響の長期化により、私たちが関わる10代の少女たちも、これまで以上に困窮し、暴力被害も深刻化しています。学校の休校、外出自粛要請、親のリモートワークなどにより家での時間が増え、他の大人との関わりが薄くなったことから、親からの支配や虐待のリスクが高まり、相談は急増しました。3月から5月までに、例年の半年分を越える300名以上から相談があり、現在も増え続けています。

こうした状況に、性搾取を目的とした業者や買春者がつけこみ、夜の街では、性搾取を目的とした男性たちが100人以上、少女たちに声を掛けています。SNSで「家にいたくない」と少女たちがつぶやくと、10分もあれば20人ほどの男性から「泊めてあげる」「サポートします」「うちに来たら？」と連絡があります。業者も「行くところがないなら、うちにおいで」「仕事もあるよ」と声を掛けてきます。これはセーフティネットではなく、女性を商品化し、搾取するための手段です。困っている少女たちを探し、つながろうとしているのが、手を差し伸べようとする大人ではなく、彼女たちを利用しようとする大人ばかりなのです。

一方で、少女たちが公的支援を受けるには高いハードルがあります。そのため、私たちは夜の街で家に帰れずにいる少女たちを「発見し、出会い、つながること」を目的に、アウトリーチ活動を行っています。コロナ禍で、安全な居場所・住まいを確保し、安心して生活を送れるようにするための支援活動にYMCAも協力いただき、4月から7月までの間に40名以上の女性に300泊以上の宿泊支援や食事提供を行いました。

安心して過ごせる「ホーム」を持たない人たちは、「ステイホーム」の呼びかけから、排除されています。少女たちの中には、自分の困りごとに気づいていなかったり、共に状況を整理する大人がそばにいなかったり、困ったときに「相談する」ということが思いつかなかったり、「甘えるな、お前のせいだ」と言われて育ち、自分が悪いと思いついでいる人もいます。大人たちが彼女たちの声を聞き、彼女たちに責任を押し付けるのではなく、社会の問題として声をあげ、少女を性的に消費する社会を変えていかなければなりません。そして、どんな人たちにも安心して過ごせる「ホーム」がある社会にしていきたいです。

10月11日は国際ガールズデー

「国際ガールズ・デー」は、国連が2011年12月19日に採択し、毎年10月11日を記念日としました。「女の子の権利」や「女の子のエンパワーメント」の促進を、広く国際社会に呼びかける日です。女の子たちが教育や訓練を受け、雇用されるような力を身につけることを目的としています。



ポジティブな姿勢を体現できるリーダーを育成したい 鹿児島YMCAチアダンススクール

鹿児島YMCAチアダンススクールは、2020年9月に開講から12年目を迎えることができました。

世間一般には習いごととして馴染みのうすいチアダンスですが、スクール開講4年目ごろから徐々に地域の方々に認知され、順調に成長してきました。この期間、チアダンスの大会では毎年のように全国の舞台に出場しており、一昨年はついに、本場アメリカで行われた国際大会に推薦されて、出場することができました。チアダンススクールには男の子もいますが、メンバーの9割9分が女の子です。現在、約210名が在籍して、日々のレッスンでは、技術指導以上に責任感や思いやり、尊敬心といったことを大切にしています。

私たちのスクールの理念の一つに「チアガールではなくチアリーダーを育てる」というものがあります。チア（応援する）ガール（女の子）ではなく、チア（応援する）リーダー（率先して引っ張っていくリーダー）であるという考えです。これにはジェンダーにとらわれることなくリーダーシップを発揮し、ポジティブな姿勢を体現できるリーダーを育成していきたいという思いがあります。

異年齢の子どもたちが集うスクールでは、さまざまなできごとがあります。

例えば、体験レッスンに来た子どもを受け入れるのは、私たちスタッフの大事な仕事です。しかし、在籍している子どもたちには、「チアリーダーとして

どうすべきだと思う？」と問いかけています。体験者の不安な気持ちに寄り添い、在籍している子どもたちが率先して、クラスに溶け込んでもらおうと行動することで、ほとんどの体験者は楽しかったという経験をしてくれるのです。



新しいユニフォームでジャンプ！早くみなさんにお披露目したいです！

園児から中学生までと一緒にレッスンを受けることも普通にあります。そのようなクラスでは、年長の子どもたちが積極的に面倒を見てくれます。水筒の開け閉めやかぼんの並べ方、ポンポンを持つときの補助など、自分たちで気づいて、率先して面倒を見てくれるようになりました。

このような関わりは、大人が指導しているものではありません。「チアリーダーとは」「リーダーシップとは」「ポジティブな関係性とは」子どもたちにたくさん問いかけます。そして子どもたちなりに考え、行動し、その行動が周りに影響していきます。お世話されていた子どもが、いつの間にか自分がしてもらったことを誰かにするようになる。自主性と考えるきっかけを作るだけで、子どもたちの行動が面白いように変わる。そんなことを私たちはこのスクールを通して子どもたちから教えられています。

鹿児島YMCA 新内容子



アジア・世界のYMCAから

男女ともに生きやすい社会を目指したリーダーシップを養成

東京YMCAは1990年にバングラデシュ YMCA同盟とパートナーシップを締結し、特に貧困層の子ども、ユース、女性の支援を継続しています。近年の目覚ましい経済成長の一方で、女性差別は依然としてバングラデシュの大きな課題の一つであり、これは文化的、宗教的要因に起因するだけに根深いものがあります。東京YMCAはこれまでに、女性の識字教育、手工芸品プロジェクト、働く子どもたちの学校（男女平等な教育機会の提供）等を通じて、バングラデシュ社会で女性が自立していくための支援を行ってきました。また近年、資金協力をしているプログラムの一つに「ジェンダー主流化ワークショップ」があります。バングラデシュ国内3つのエリアで夏季に1泊2日で実施され、昨年は計47名のユース（男女ほぼ半数ずつ）が参加しました。教育や就労における女性差別、女性への家庭内暴力、女児の性虐待など、ジェンダーにまつわる社会課題とその構造について学び、グループで議論するものです。男女ともに生きやすい社会を創る担い手となるリーダーシップを養成することで、ジェンダー不公正の連鎖を断ちきろうとするのが、このプログラムの目的です。地道な取り組みですが、社会変革に向けたバングラデシュYMCAの尊い働きを、今後も応援していきます。



東京YMCA 戸坂 昇子

ジェンダー主流化ワークショップ

Positive Net NEWS

一般財団法人日本宝くじ協会から助成金交付

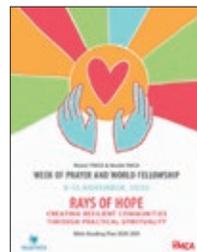
一般財団法人日本宝くじ協会より助成金の交付を受けて、集会用テント40張、宿泊用テント18張を購入いたしました。このテントは、全国22YMCAのキャンプ場



および施設に贈られ、全国子どもたちのテント設営（2019年度くんまYMCA）のYMCAで実施される地域の方々に招いた行事、キャンプや野外での青少年育成活動、また災害による被災地の支援活動等に用いられます。

2020年度世界YMCA/YWCA合同祈祷週

世界YMCA・YWCAでは、11月の第2週目の日曜日からの1週間を合同祈祷週として、毎年一つのテーマをもとに、聖書からのメッセージを聴き、祈りを共にするときとして定めています。今年は以下のテーマのもと、祈りを合わせます。



■テーマ："Rays of hope: creating a resilient community through practical spirituality"

「希望の光:実践的な霊性によって、レジリエンスのあるコミュニティを創る」(仮題)

■日程:2020年11月8日(日)～13日(金)